2033

シングルマザーのためのシェアハウス

Apartment Building for Single Mothers

AD38　山本　瑠以
指導教員　比留間　真

1. 研究目的

少子高齢化による働き手の減少により、女性の社会進出が求められている。しかし、シングルマザーは仕事と家事を一人でこなさなければならないことが多い。そのため、子育てにおける孤独感や貧困の問題が起きている。今後の社会には女性がさらに求められるため、中でもシングルマザーに的を絞って、これらの問題を解決することを目的とする。

2. 調査と分析

現在日本では空き家率が増加しており、全国6000 万戸のうち 13.5%の 820 万戸が使われていない住宅として存在している。また、インフラの老朽化により、新規:維持の割合が 2037 年には 100:0 になり、これからのメンテナンスが重要になると考えられる。つまり、ストックをいかに活用するかが今後求められる。

ここ数年、集まって住むメリットが見直されて、団地などのストックを活用したシェアハウスが増えている。特に女性がターゲットのものが多く、「安心感がある」、「家賃を安く抑えられる」、「コミュニケーションが取れて楽しそう」などの理由から入居を決めている。またこれらの提案は、平面的な改装であって、立体的に空間をつなげた提案はまだ無い。

3. コンセプトの立案

「ストックを活用した合理的かつ遊び心のある空間」
1:それぞれの存在を感じ取れる空間
2:コミュニケーションをとりやすい空間
3:立体的な空間の活用

4. デザイン展開

今回の提案は団地の代表として 51c 型をモデルに設計した。

1:共有スペースを一つの空間として繋げる。

南から北へ空気が抜けるとともに立体的に繋げることで、同じスペースにいなくても互いを認識できるようにした。 (図 1 中(1))

2:共有スペースと居室を交互に配置

7つの居室と共有スペースを交互に配置することで 1 階のリビングから 4 階の居室までの道のりで、自然とコミュニケーションが生まれるような構成にした。

3:3 つの居室の壁面に傾斜をつけた

圧迫感の軽減と、採光や音への配慮した。また縦への意識を感じさせることを狙った。 (図 1 中(2))

5. 完成図

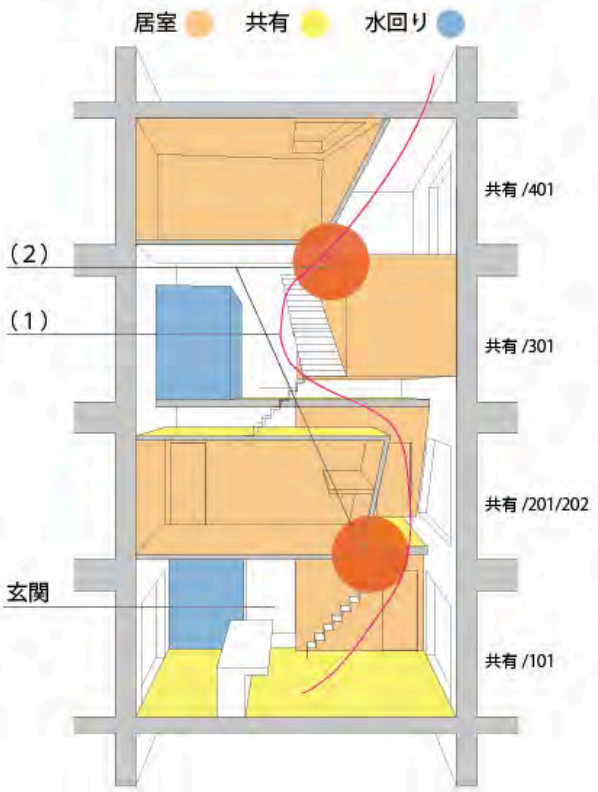

図 1 ・断面パース図・

6. 結論

この提案を実際にシングルマザーの方にお聞きしていただいたところ、

1:共有スペースが多すぎて管理が大変そう
2:どこの部屋に入居しても楽しそう
3:明るく、風通しのよい気持ちのよさそうな空間

などの意見を頂いた。シェアハウスにすることで問題は解決された。

この提案でストックの新しい活用法を見出すことができた。また構造的な検討は不十分であった。

文　献

[1]総務省統計局－平成 25 年住宅・土地統計調査
http://www.stat.go.jp/data/jyutaku/2013/tokubetu.htm
[2]シェアハウスが増えている 5 つの理由
http://we-will.be/archives/2120